

JFA第44回全日本U-12サッカー選手権大会 北海道大会ファイナルラウンド（2020/10/11）

【準決勝Aコート】

北海道コンサドーレ札幌U-12（札幌地区） 1－0 Arearea FC（苫小牧地区）

« 1－0・0－0 »

○前半

快晴の中キックオフ。両チーム共に丁寧にサイドを使ってFWに当て、時間を生み出して2列目3列目の選手が飛び出していくプレースタイル。開始早々はコンサドーレのプレッシャーが速く、1分にはAreareaのGKへのバックミス奪ってシュート。決定機だったがゴールには至らず。その後2分には右サイド②のミドルシュートでチャンスを立て続けに迎える。前進させるパスへのアプローチが速く、Areareaはなかなか前進できない時間帯が続くが、飲水タイムを挟んでからは少しずつ⑪、⑭にボールが収まるようになる。コンサドーレも⑤を中心にブロックを形成して決定機を作らせず、前半は0－0で終了。コンサドーレはシュート10本、Areareaは3本だった。



○後半

Areareaは、3-1-2-1のボランチ⑭を中心にボールを動かし、⑧と⑥のシャドーが斜めに動くことでスペースを作り、チャンスを生み出す。Areareaがボールをキープし、ゴールに迫る時間が長くなるが、逆に28分、コンサドーレ札幌⑧が中央にボールを持ち出し、右のFW⑪へパスすると、⑪はワンタッチで⑬に流し完全フリーになっていた⑬が、落ち着いてゴール右隅に流し込みコンサドーレ札幌が先制。そのまま勢いにのったコンサドーレは中央の2枚のMFが高いポジションを取り、Areareaのリズムを生み出していた⑭が中央で守備に戻る時間が長くなる。時折右サイドから連動した攻撃を行うも、コンサドーレ札幌左DFの⑥が的確に対応し決定機を作らせない。共に守備の意識が高く、後半はシュート2本ずつだったが、後半1点を奪ったコンサドーレ札幌が、その後はペースを渡さず1－0で勝利し決勝戦へ進出した。両チーム共に技術・戦術眼共に優れ、激しいけどフェアな素晴らしいゲームだった。



（文責：北空知地区技術委員：菅原一毅）

【準決勝Bコート】

北海道コンサドーレ東川U-12（旭川地区） 0－1 プログレッシブ十勝F C U-12（十勝地区）
《0－0・0－1》

○前半

気温18℃ 湿度47%の快晴の中 12時にプログレッシブ十勝のキックオフで試合開始。

コンサドーレ東川は3-2-2で細かくパスを繋ぎ、両チーム素早いプレスから一進一退を繰り返すが、3-3-1のプログレッシブは左サイドの⑩を中心にサイドをワイドに使い攻撃を活性化。6分左サイドの⑩からのクロスが必死に戻ってきたコンサドーレ東川④の足に当たりオウンゴールで試合が動く。

コンサドーレ東川は不運な形でのゴールとなった。15分コンサドーレ東川は⑩と⑪のショートカウンターから⑩がシュートを打つが枠外。

その後は両チームとも中々フィニッシュまでいけない中、中央から放ったプログレッシブ⑩の右足のシュートはGKの正面。終了間際の20分コンサドーレ東川④がセンターサークル付近のフリーキックから直接ゴールを狙うが枠外。21分同じような所から今度はプログレッシブ⑤がフリーキックを直接狙うが、GKがキャッチして前半を終了した。

前半は両チームともシュート2本で、激しい守備が目立った。



○後半

両チームともそのままの形でスタート。序盤コンサドーレ東川は個人技を中心にペースを掴みそうになるが、プログレッシブは素早いプレスから全員の運動量が多くハードワークをし、ペースを握らせない。24分プログレッシブは右サイドを崩し、中央から④がシュートもGKがセーブ。



プログレッシブは28分に⑫のコーナーキックから④のヘディングもGK正面。疲れが見えそうな時間帯になるが、プログレッシブは次々とフレッシュな選手を投入し、激しい守備を継続する。その後もプログレッシブは、グラウンダーのコーナーキックから⑨の相手を外すファーストタッチからシュートや、コーナーキックの流れから⑫が左足でシュー

トなど攻勢を強め、コンサドーレ東川がカウンターを狙う形になるが、最後までプログレッシブは粘り強い守備で、コンサドーレ東川の攻撃を凌ぎ1－0のままタイムアップとなり決勝へと駒を進めた。

両チームとも運動量が多く、戦術眼に優れ、激しく素晴らしいゲームとなった。

（文責：北空知地区技術委員：永田 壘）

【決 勝】

北海道コンサドーレ札幌U-12（札幌地区） 0 - 1 プロGRESSO十勝F C U-12（十勝地区）
« 0 - 0 ・ 0 - 0 延長 0 - 1 ・ 0 - 0 »

○前半

気温15度、湿度50%の快晴の中、北海道代表を決める決勝戦がスタート。

キックオフはプロGRESSO。3-3-1で、左サイドを起点にしながら、オーバーをかけて崩したいプロGRESSOに対し、3-2-2で、中央2枚のボランチからワイドに展開したいコンサドーレ札幌。前半は横にボールを動かしながら前進したいコンサドーレに対し、縦パスに素早くプレスをかけ、前進を阻もうとするプロGRESSO。6分、コンサドーレは⑪→⑬のFW2枚でフィニッシュまで持ち込み、チャンスを作る。一方、プロGRESSOは、8分、サイドチェンジから⑬がミドルシュートを放つ。前半はコンサドーレのシュートが3本、プロGRESSOが1本。ボール保持率はややコンサドーレだったが、互いに決定機まで持ち込ませない強度の高い前半だった。

○後半

立ち上がり立て続けにプロGRESSOに決定機が訪れる。22分、左サイドからFK。23分、⑩の個人技での突破から中央に折り返し、あわやゴールというシーンを生み出す。コンサドーレ



はその1分後、左サイドのDF⑥から⑪へスルーパス。GKと1 VS 1の場面を生み出すが、左足で放たれたシュートは右ポストをかすめ、外れる。33分にはプロGRESSOのビルドアップにプレッシャーをかけ、シュートを放つが決まらない。コンサドーレは⑧をFWにあげ、少ないタッチの崩しから決定機を作り、

⑪のシュートがバーを直撃するも決まらず。プロGRESSOも粘り強い守備を続け、0-0のまま延長戦へ突入する。

○延長戦

42分に、プロGRESSO⑫がゴール前で粘り、FKを獲得する。プロGRESSOのキッカーは⑩。⑩は壁に出来た僅かな隙間に強烈なキックを蹴ると、ボールはゴール左隅へ一直線に突き刺さり、ついにプロGRESSOが先制する。その後はピッチをワイドに使い、時間を使いながら追加点を狙うプロGRESSOと、プレスをかけて同点に追いつこうとするコンサドーレの攻防が続く。コンサドーレはCBのキャプテン⑤をFWに上げ、同点に持ち込もうとするが、プロGRESSOも集中して連続した守備を行い、そのままタイムアップ。コンサドーレの5連覇を阻み、初優勝を果たした。

十勝勢としては17年ぶりで、全国大会で3位に入賞した帯広FC以来の優勝となった。

（文責：北空知地区技術委員：菅原一毅 永田 塁）



優勝 プロGRESSO十勝F C U-12



準優勝 北海道コンサドーレ札幌U-12



第3位 北海道コンサドーレ東川U-12



第3位 Area Area F C